

いしづち

2023.7

JULY

No.153

 公益社団法人 愛媛県建築士会
Ehime Society of Architects & Building Engineers
<http://www.ehime-shikai.com>



Arc3.0

城大工「坂本家」の足跡（前編）

世界建築紀行 20世紀を代表する住宅建築コルビジエのサヴォア邸に会いに行く

1	Arc3.0	道上壯/VuA……①
2	城大工「坂本家」の足跡（前編）	一級建築士 野本 健……③ 文化財・まちづくり委員会 委員 花岡 直樹……③
3	世界建築紀行 20世紀を代表する住宅建築 コルビジエのサヴォア邸に会いに行く	西予支部 松山 清……⑨
4	東京街歩きVOL.2	会長 尾藤 淳一……⑩
5	委員会活動報告 建築士会・建築士事務所協会合同親睦ゴルフコンペ	総務・企画委員会 委員長 井上 竜治……⑮
6	支部報告 空き家対策セミナー2023 in 今治 松山支部より	今治支部 越智 一貴……⑯ 松山支部 支部長 花岡 直樹……⑰
7	けんちくの輪 愉しむ 建築士？ 土木技士？	松山支部 花房 那樹……⑱ 八幡浜支部 藤川 広治……⑲
8	お知らせ 公益社団法人愛媛県建築士会 創立70周年記念事業への協賛のお礼 『第2回愛媛の景観写真コンテスト』募集のお知らせ 令和5年度 第1回理事会概要報告	会長 尾藤 淳一……⑳ 文化財・まちづくり委員会……㉑ 事務局……㉒

※尚、表紙及び本誌記事の無断転載を禁じます。



アクリル、キャンパス

題：「山根製錬所」

山根製錬所は、明治21(1888)年5月、竣工された。設計したのは、東京大学の教授・岩佐巖。

岩佐は広瀬幸平の招きに応じ、別子銅山で廃棄していた低品位の鉱石から硫酸などの化学薬品の回収と、残った鉄分からの製鉄を目指した。それは、官営八幡製鉄所に先立つこと7年であった。

わが国最古級の重化学工業の忘れ形見である煙突は、120年を経過した今日でもレンガ造りのその愛らしい姿により、市民からは「えんとつ山」の愛称で親しまれている。(引用・新居浜市HPより)

表紙作者 上田 勇一 プロフィール

1974 東京生まれ
1980 小学校から高校まで松山在住
1990 東日本建築教育研究会製図コンクールにて奨励賞
1991 愛媛県内高校生建築競技設計にて会長賞
(愛媛県建築士事務所協会主催)
1993 画家・高橋勉氏に師事。約10年間、古典絵画技法全般を学ぶ
1996 日本工業大学建築学科 卒業
1998 画家として活動開始する。東京や埼玉にて毎年個展開催
2002 日本ファンタジーノベル賞受賞作者「世界の果の庭」
(新潮社)の装丁担当
2003 美術家の登竜門である昭和会にて優秀賞(東京/日動画廊)
2010 愛媛県美術館に作品「ドライブフラワー」收藏される
2015~17 愛媛新聞 冊子アクリート表紙画連載
絵画教室やオリジナルブランド額工房「榊リチエルカ」を設立
2017 「えひめの塗り絵」を出版
その他、出版装丁画や受賞多数、全国にて個展中心に活動。
現在、現代日本美術会 会員/審査員

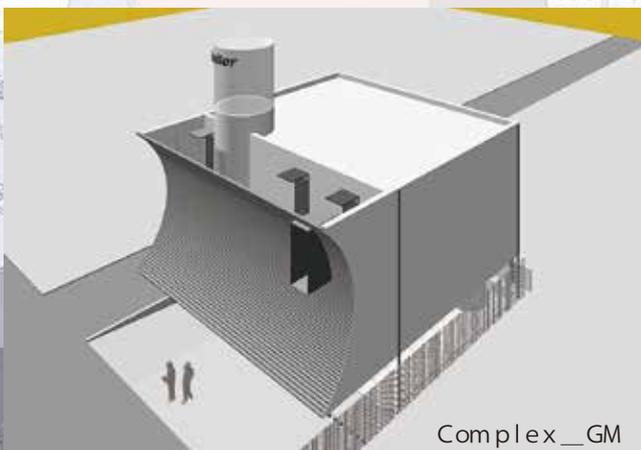
最近、Web 3.0というキーワードをよく聞くようになった。Web 1.0は「情報の発信者が一部の人に限られた、一方通行のインターネット」のことで、Web 2.0は「誰もが情報発信者となり、双方向のコミュニケーションが可能なインターネット」のことで、Web 3.0とは「双方向のコミュニケーションが、ネット（パブリックチェーン）でも、ネットでなく（プライベートチェーン）でも可能になった大規模かつ個別分散型ネットワーク」のことだ。



Building_NS

Webの世界は、発展の歴史を認識しつつ、これから進むべき方向性を考え模索している。建築も、これまでの歴史を振り返りつつ、これからの建築のあり方や進むべき方向性を考え模索する必要があると僕は思っている。そう、今こそArc 3.0を、みんなで真剣に考えてみよう。僕はArc X.Xをこんな風に捉えている。

Arc 0.0とは「人間が、自然をそのまま利用しながら、建築的に空間的に使ってきた時代」と考えている。例えば、アルタミラ洞窟やラスコー洞窟のように、自然がつくったスペースを人間が居住空間として建築的に使っていた時代がそれに当たる。大きな木の下やちょっとした岩陰なども含め、風雨をしのげる所を生活空間として利用していた、建築が登場する前の段階だ。人間が空間や建築を意識的に作り出してはいない黎明期なので、建築はまだ0（ゼロ）のフェーズだ。



Complex_GM

Arc 1.0とは「人間が、自然素材を単純加工して建築をつくってきた時代」と考えている。石造や木造や日干しレンガ造など、自然素材の形を変えることによって建築材料化し、建築や空間を意識的に作り出してきた時代がそれに当たる。ストーンヘンジや竪穴式住居から始まり、歴史様式と呼ばれる近代以前の建築の段階だ。構造的、機能的な制約はありながらも、人間が果敢に空間や建築に挑んできた過渡期なので、建築はスタートで1のフェーズだ。

Arc 2.0とは「人間が、自然素材に化学反応を伴う加工を施し、別の建築材料を生み出して建築をつくってきた時代」と考えている。鉄やガラスやコンクリートなど、現代建築につながる素材や材料を開発し、構造や機能を飛躍的に発展させた時代がそれに当たる。歴史様式の時代では実現が不可能だった空間や建築を、次々と生み出してきた近代や現代の建築の段階だ。建築を地上だけに留まらず、海底や宇宙空間や月や火星までもに拡張していった発展期なので、建築は変化で2のフェーズだ。

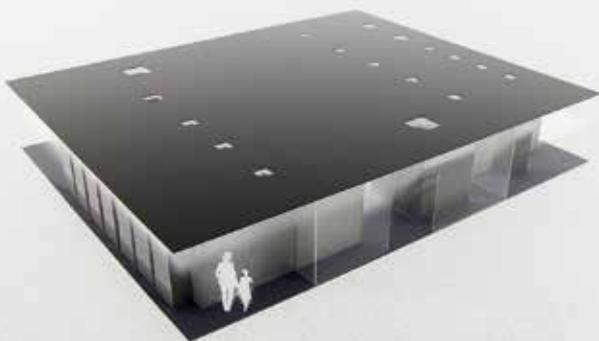
Arc 3.0とは「人間が、現実の建築にこだわらず、意識的、感覚的に空間や建築を感じるができるものをつくってゆく時代」と考えている。新しい素材や構造形式の登場だけではなく、メタバースやBCI（ブレイン・コンピューター・インターフェース＝人間の脳とコンピューターをつなぐ技術）なども含め、現実と非現実の空間や建築が混在・併存しながら、新しい空間や建築のあり方に辿り着いてゆく

時代がそれに当たる。ひょっとすると、建築だけではなく、人間自体も機械との融合によって大きく変わり、様々な知覚や感覚が今までとは全く違うものになる可能性を秘めた段階だ。人間が現実の世界から飛び出して、空間や建築を考え始めた変革期なので、建築は進化で3のフェーズだ。

Arc 3.0を色々考える前に、今、現実の建築で起こりつつあるArc 2.6の存在も忘れずに考えておきたい。

現在、世界各地で空飛ぶクルマの開発競争が進んでいる。僕たちが使っている自動車の大部分が空を飛ぶタイプに変わってしまったら、建築へのアプローチは大きく変わることになる。単純に考えれば、屋上に着陸して、そこから建築へ内部空間へアプローチする方が便利になる。地上に着陸スペースを計画すると、その分だけ土地が必要になり建築は小さくもなる。屋上やバルコニーが着陸スペースになれば、様々な点でメリットを見出させることになる。

主要なアプローチや玄関は建築の上部からとなり、立体構成や平面計画を新たに考え直す必要がある。映画「オブリビオン」に出てきた空中に浮かぶ建築のようになるのか？京都亀山集落の舟小屋の上下反転タイプのようになるのか？今、都心の高層商業建築では、これからどんな改修が必要なのか？どんな建物を建てるのが良いのか？を、空飛ぶクルマ社会を前提に、真剣な議論が交わされている。



Toilet_YC



Museum_HT

Arc 3.0の話に戻ろう。

建築の新素材や新構法が発展してゆく可能性は低いだろう。なぜなら、建築に関わる僕たちも、一般の人達も、その分野に強い関心を持っていないからだ。逆に、メタバースやBCIは、建築のジャンルに関わらず、世界のみんなが強い関心を持っている。歴史上、人間の文化・文明・技術その他の発展には、みんなの強い関心＝モチベーションがベースにあることは自明の理だ。ただ、それらがどんな方向に進んでゆくのかは、これからの人間の考え次第という海図のない航海でもある。

人間は、愚かでもあり賢くもある。その間を揺れ動きながら、今まで様々なことを成し遂げてきた。Arc 3.0も紆余曲折を重ねながら、ある方向へと進んでゆくだろう。脳をコンピューターにつなぎ、ゲノム編集で肉体を改造し、部分的に機械と交換して、人間は超人類へと変貌しようとしている。全能の神に近づいた人間が求める空間や建築を、僕は知る由もない。ただ、いつの時代もどんな時代も、人間は快適性や心地よさを空間や建築に求めてきたことは確かだ。Arc 3.0をどうしてゆきたいか？さあ、みんなで考えてみよう！

城大工「坂本家」の足跡

執筆： 一級建築士 野本 健
監修：文化財・まちづくり委員会 委員 花岡 直樹



▲道後温泉本館 神の湯本館

謝辞

坂本浩一郎様【坂本家子孫】～坂本家の多くの資料の提供及び助言
袖山 俊夫様【伊予史談会】～多くの古文書の解読及び助言

<ことわり>

以下記載内容は、現時点において収集できた文献から総合的に判断した内容を記載している。
そのため、調査状況により新たな知見が得られた場合、記載内容に訂正の必要が生じる可能性はある。

はじまり

道後温泉本館の建築は城大工の家系である「坂本家10代目：坂本又八郎」が携わった、そのように多くの文献で記されている。

今も現存する北側の神の湯本館は建設当時、多くの反対運動が行われる中、坂本又八郎が製作した神の湯本館の模型で反対派の声を抑えたという話が残っている。

坂本又八郎は道後温泉本館の建築に携わる前から城大工の子孫として有名な人物であったが、それまでにどのような建物の設計に携わり、どのような人生を歩んできたか、まったく資料に残っておらず、わからない状況であった。

城大工「坂本家」の足跡

また、現在の松山市の主要な観光場所は松山城と道後温泉である。松山城は坂本又八郎の先代にあたる「9代目：坂本又左衛門」が携わっていたが、松山城以外にどのような建築物に携わっていたか不明

であった。主要な観光地の建設に関わった城大工である坂本家のことが何もわからず、このまま歴史の闇に埋もれてしまうことが不憫でならず、このように執筆させていただいた次第である。

坂本又八郎 ■ Matahachiro Sakamoto

彼の略歴について紹介する。坂本又八郎は天保10年（1839）に誕生する（9代目坂本又左衛門は元治元年〔1864〕10月に逝去されている）。その後、文久元年（1861）に須之内チカと結婚し、明治22年（1889）に離婚している。

明治25年（1892）に道後温泉本館の棟梁として任命され、明治27年（1894）の神の湯本館の建設、明治32年（1899）の又新殿・霊の湯棟の建設に携わった。

道後温泉本館の棟梁に任命されながらも明治29年（1896）福岡県の水天宮、明治32年（1899）に熊本県山鹿温泉の建設にも携わっていた。

そして明治34年（1901）にその生涯を閉じるのであった。

明治25年の道後温泉本館に携わった時には坂本又八郎は50代、当時の湯之町町長の伊佐庭如矢は60代、お互い人生最後の大仕事としてこの道後温泉本館の建設に携わったことが非常によくわかる。

次に坂本家の資料から9代目：坂本又左衛門を含め、坂本家がどのような建築物に携わったのか年代順に解説していく。



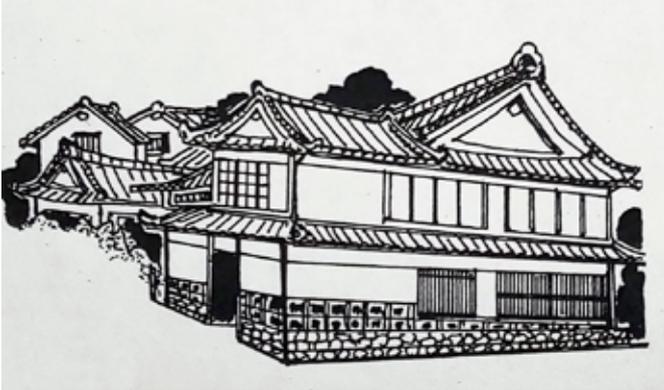
▲坂本又八郎の文机（提供：坂本浩一郎）

城大工「坂本家」の足跡

9代目：坂本又左衛門

9th generation

Matazaemon Sakamoto



▲木村屋敷（引用：松山市立新玉小学校創立100周年記念誌）



▲〔江戸切絵図〕
芝愛宕下絵図
（引用：国立国会図書館）



嘉永3年(1850)

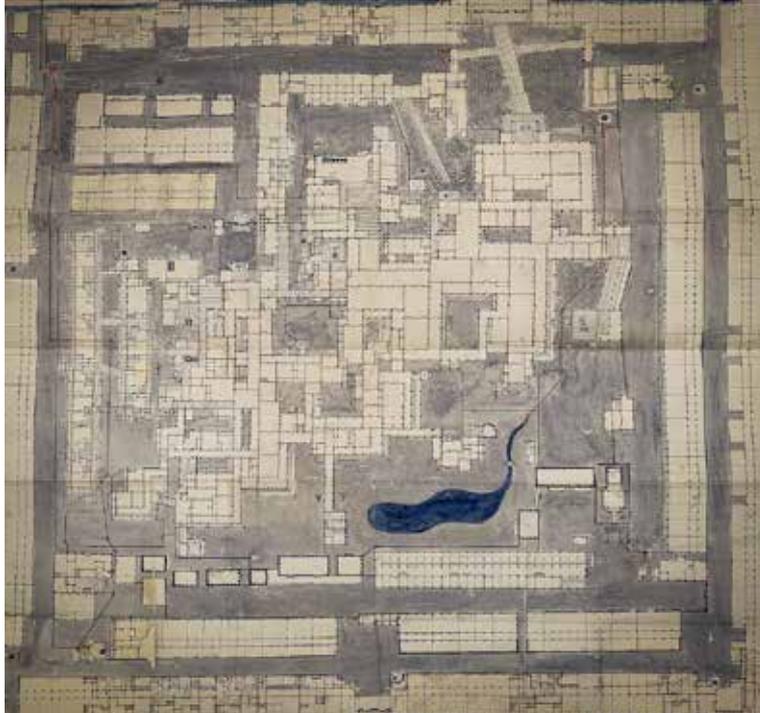
現在の松山市三番町の最廣寺の近くに「木村屋敷」という藩政時代から松山一の富豪であった木村信競の大屋敷があった。
きむらのぶたか

木村信競は町役人として最高の地位である大年寄に選ばれ、藩にも御用金を納めたり、国学を研究するなど、世のために働いた人物であった。そのため町の人々は尊敬の意を込めて「大木村」と呼んでいたそうだ。

坂本家の資料である祝詞より木村屋敷の建築に携わったことがわかった。富豪の家の建築、城大工である坂本家が携わったのは当然の流れであるように思える。

嘉永4年(1851)

江戸には各藩の現藩主やその家族が居住し、藩の政治・外交の拠点となる上屋敷という建物が建てられていた。松山藩は現在の東京都港区西新橋の付近に存在し、坂本家の資料によれば嘉永4年に祝詞をあげている。城大工であるため、藩主が住む屋敷についても棟梁として携わったものと考えられる。



▲松山藩松平家上屋敷「江戸芝愛宕下松山御上屋敷図」
(提供：伊予史談会)



▲松山城 (提供：二神 将)



▲現在の松山城

安政元年(1854)

加藤嘉明が慶長7年(1602)に松山城の築城を開始し、慶長8年(1603)に新城に移っている。その後、松平定行(松山藩松平家初代藩主)の代で寛永19年(1642)に改築工事を行い、天明4年(1784)の時に雷火によって焼失した。焼失後、約60年が経過した弘化4年(1847)から松山城の再建が始まり、安政元年(1854)に落成大典を執り行った。この

時の天守閣の再建に9代目：坂本又左衛門が棟梁として任命されている。

昭和8年(1933)小天守閣などが放火により全焼し、昭和20年(1945)太鼓門、乾門一帯が空襲により焼失している。現在の姿は昭和41年(1966)から総木造で復興したものである。



▲千秋寺入口



▲現在の千秋寺



▲現在の正法寺

文久2年(1862)

貞享4年(1687)、松山藩主の松平定直(松山藩松平家四代目藩主)により黄檗宗の寺として千秋寺が創建された(戦争で焼失している)。

文久2年(1862)2月に千秋寺の住職である19世周道の自宅の建設の祝詞をあげている。

松山藩の城大工であったことから、藩主の関わる寺や住職の自宅の建設に関わるのは当然の流れであるように思える。

文久3年(1863)

文久3年(1863)の12月に高倉通の建物について祝詞をあげている。京都の高倉通がある和久屋町(中京区高倉通六角下ル)には、伊予松山藩の松平氏の京屋敷があり、宝永・天明・元治の大火で焼失している。そして明治3年(1870)に廃邸となっている。

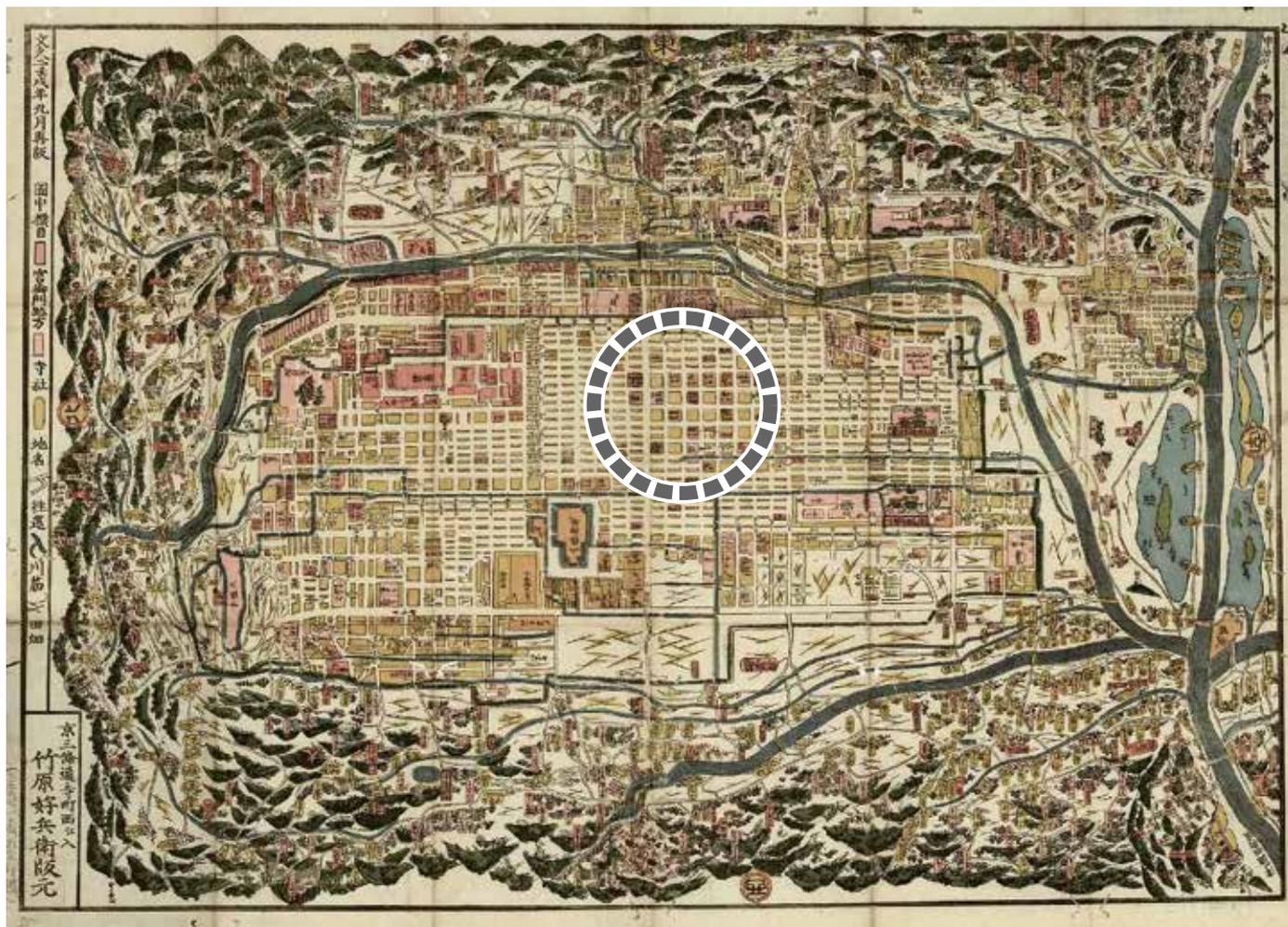
「文久改正新選京繪圖」の二条城の東に「マツ山ヤシキ」の文字が確認され、屋敷があった場所は現在、京都市立高倉小学校となっている。

元治元年(1864)

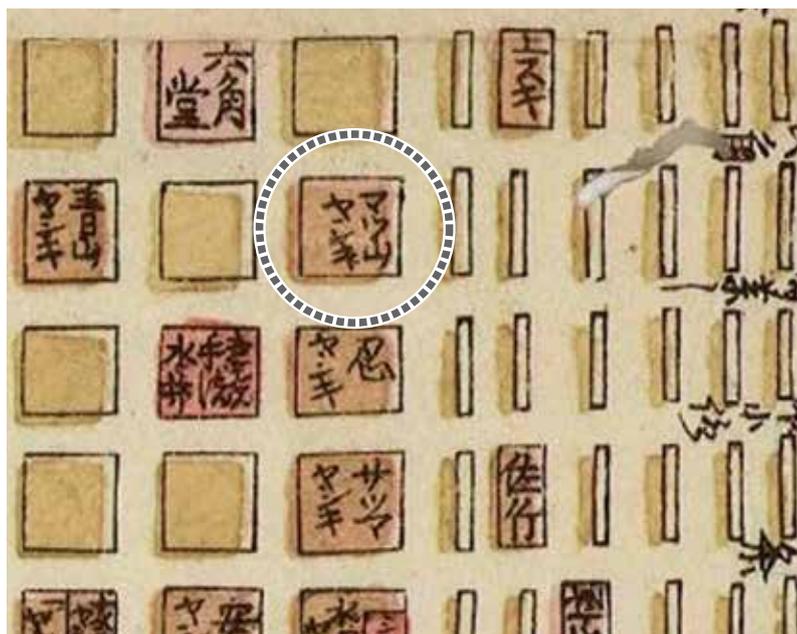
西条市にある正法寺は元禄8年(1695)、松山藩主の松平定直(松山藩松平家四代目藩主)の勧めで黄檗宗の寺として既にある寺の修復復興をしたことが始まりであると言われている(当時は幕府の政策で新しく寺を建設することが禁じられていたため)。

その後、元禄15年(1702)に現在の場所に移転し、正法寺と呼ぶようになった。

坂本家の資料によれば雨風によって傷み再建築するため、元治元年(1864)3月に祝詞をあげている。9代目:坂本又左衛門の晩年の作品とも言える。



▼文久改正新選京繪圖（提供：国際日本文化研究センター）▲



後編に続く

20世紀を代表する住宅建築 コルビジエのサヴォア邸に会いに行く

西予支部 松山 清

1 いつかはサヴォア邸へ

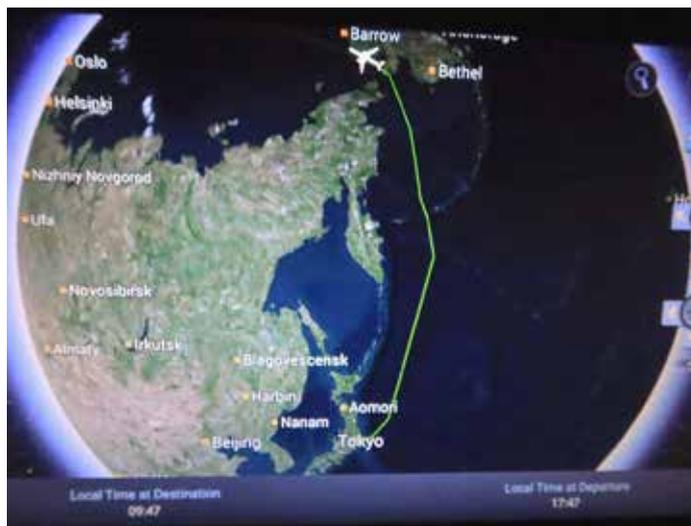
“近代建築の父”と呼ばれる巨匠ル・コルビジエを、学生時代に教官が熱く語っていたのが忘れられなくて、いつかは自分の目で確かめてみたいと思っていた。社内旅行でも建築史的に重要な意味の建物だと上野の国立西洋美術館を見学した翌年に、世界各地のコルビジエ作品が世界遺産に登録されたこともあり、サヴォア邸を訪れなければという思いがますます強くなった。これまで建築に関わってきたので、その原点ともいえるコルビジエの残した作品と精神を再確認したかった。宇宙船が着陸したようなイメージのサヴォア邸は思っていたよりも大きく、イメージしていたのとは全然違っていた。

昨年はコロナ禍で日本人が海外に行かないため特典航空券を容易く入手できたが、実際にパリへ行ってみると世界はコロナから完全に脱却していて、取り残された日本社会を感じることもなかった。



▲サヴォア邸玄関側

2 スイス航空でオーロラ帯を飛ぶ



▲北極海への飛行コース

2023年1月26日、翌日の昼の便でパリへ向かうため成田へ行った。出発までは不安がいっぱいで、いろいろ心配して準備をしたため、いざ旅立つと後は淡々と時間が流れていく。27日の便でチューリッヒ経由でパリへと出発したが、空港の出発カウンターはまだ半分くらい稼働していない。スイス航空の前方席は10席程の狭い空間だが、日本語は自分が話す以外聞こえてこなくて、外国語が飛び交う完全にアウェイの雰囲気なのだ。しかし、抱えていた大きな不安とは裏腹に快適なフライトだった。飛行機は成田を離陸して東へと進路をとる。ディスプレイに表示されたシベリア上空を西に飛ぶコースとは全く逆で、日本列島とカムチャッカ半島に沿って北上、北極海へ抜けグリーンランドから南下してスイスへ入った。ロシアの侵略戦争のせいでかなりの大回り、飛行時間は優に13時間を超えた。



▲飛行機から見たオーロラ

北極海を東へ飛行中、オーロラが見えた。窓の外は午後3時頃になると暗くなり、飛行ルートがオーロラ帯に沿っているため、カーテンのように進行方向前方に長い時間見えていた。しかし、その横に行くと次第に薄くなっていく。初めての体験だったが、これで冬のオーロラツアーには行かなくて済みそうだ。

3 サヴォア邸のあるパリ北西部ポアジー

ホテルはアルルやロンシャンへの移動を考えてパリ、リヨン駅付近にした。28日午前9時、メルキュールホテルロビーで、ガイドと待ち合わせ。日本とフランスで一級建築士の資格を持ち医療関係が専門で千葉県建築士会にも在籍しているそう。サヴォア邸は郊外電車終着駅のポアジーにあるため一人で行くのは困難と思ったし、そこからバスにも乗る必要がある。また外国では様々なトラブルに見舞われるから通訳も兼ねてアテンドをお願いすることにした。

それなのにリヨン駅で変な黒人男に切符を騙された。確かに切符の自販機は複雑でタッチパネルが使いにくいのだが、それを躊躇しているとつけこまれた。親切そうにあれを押して、これを押してなど近づい



▲サヴォア邸前の街路



▲アプローチ

てくる男を私は不信と思ったのに上手く会話に乗せられて、その男のクレジットカードを差し込まれてしまった。往復分の切符を4枚渡されて現金€20を渡したが、実はそれが入場券のような切符でポアジーで下車する時に発覚。使えない切符4枚を受け取り騙されてしまった。ガイドは落ち込んでいたが、被害がそれくらいで良かったとも言える。「パリには移民が多くて、みんなで助けあう習慣がある」と気付くまでガイドは話していたが、そんな考えは甘いことが証明されたのだ。

その後、ポアジーのバス乗り場で51番のバスが中々来なくて、タクシーにも乗車拒否されるという困難はあったが、何とかVilla Savoyeに到着。冬なので街路樹は葉を落としているが貴賓を感じさせる高級住宅街という雰囲気だった。



4 サヴォア邸との対面



▲ 玄関

サヴォア邸の敷地は100m四方はあろうかという背の高い樹木に囲まれた四角形で、その真ん中に住宅がぼつんと建っている。建物の周りは芝生に囲まれていた。

「玄関は何処だ?」、とってしまったが、いつも見ている姿はアプローチから見ると裏側なのだ。建物の裏に回り込むと玄関がある。外壁は白いとばかり思っていたが、実は1Fのピロティ部分は深い緑色で、芝生からの連続性を意図したものらしい。さらに玄関周りのガラスカーテンウォールが鮮やかで縦のストライプからシャープな印象を受け、とても90年前の建物とは思えなかった。

玄関ドアを開けて中に入ると、その右側に受付カウンターがあった。係の女性が片言の日本語も話されたので、日本人の訪問者も多いのだろう。そして、図面や写真で見えていたよりも存在感があったのが螺旋階段。この階段は美しく機能的で、屋上まで続いている。その隣にはコルビジエ建築の象徴でもある傾斜廊下（スロープ）が待っていて、2Fへと導く。スロープが意味を持つのだろうが、とも思っていたが、そこを歩むと国立西洋美術館の入口ホールから2階展示室へのプロムナードのスロープを進むような気分にさせられ、どんな空間が広がるのかワクワクした。

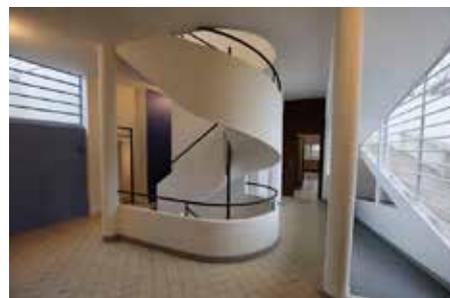


▲ ホールの螺旋階段



▲ 1F 傾斜廊下（スロープ）

2Fホールと
外部スロープ ▶



2Fは主な居住エリアで中庭を取り囲むように部屋が配置されている。ちょうどコートハウスのように、中庭をリビングの全面ガラス窓から楽しむことを重視した設計だ。完全なプライベートスペースの中庭とリビングの連続性がこの家での暮らしの主役だろう。中庭の連窓のように見える窓に建具が入っていなかった。

リビングとダイニングは一体の大空間でそれに連続するキッチンを建物の一角に機能的な作りで配置し、一方、主寝室や子供室も連窓に沿って並べ、コンパクトな広さにまとめられていた。来客室も含め



▲リビング



▲書斎へ続く部分



▲2F中庭



▲キッチン



▲配膳台を兼ねた棚



▲主寝室から見た浴室



▲屋上庭園の目隠し壁



▲屋上庭園の目隠し壁

5 サヴォア邸のメッセージ

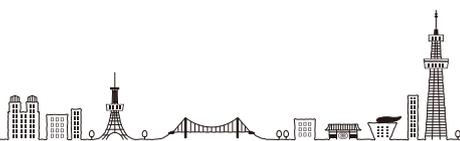


◀アプローチ側ファサード

てそれぞれに浴室があったのだが、主寝室と浴室がカーテンのみの仕切りなのには少し抵抗感がある。主寝室は一方では浴室と連続し、もう一方ではブドワールという中庭を望む書斎に続いていた。

1階から続くスロープは2階からは中庭に設置された外部スロープに繋がる。さらに上ると屋上だが、そこも屋上庭園となっていた。この家の屋上の円筒形に見える大きな壁は屋上庭園の植物の目隠しの役割を果たしているが、実は元々そこに主寝室を造る計画案だったらしい。今ではその目隠し壁がサヴォア邸のファサードの不思議感を演出しているのであった。

コルビジエは、ピロティ・横長連窓・屋上庭園・自由な平面・自由な立面という「建築の5つの要素」を提唱していたが、それを具現化したのがサヴォア邸だ。鉄筋コンクリートという素材が住宅建築に用いられる時代を迎え、この住宅建築はコルビジエの挑戦と提案であるということがよく理解できた。それが百年近くの歳月を越えて今に伝えられ輝いていた。コルビジエの考えてきたことや足跡は、これからも建築を目指す人たちの道標であり続けるに違いない。



皇居東御苑

GWを利用して、義理の父母の様子を見に行くことを口実に上京してきました。今年は朝夕少し肌寒いものの、日中は爽やかで過ごしやすい気候で助かりました。

午後の予定まで少し時間があり、天気がいいので、東京駅から皇居までぶらぶら歩くことにしました。内堀まで来て右に曲がり、大手門まで行くと何やら行列が出来ていて、どうやら皇居東御苑の見学ができるらしいので入ることにしました。

コースは特に定められていませんが、入る門によって多少変わります。入るときにパンフレットをもらって、案内図に従って見ていけば、もれなく見学できますし、苑内には案内板や標識がありますので、不自由はしません。

出入門は、きたはねばしもん大手門・平川門・北桔橋門の3箇所になります。特に予約などは必要ありません。出入門であれば、入った門でなくても出られます。



▲大手門

ただし、入園時間は季節によって若干変わるようです。また、休園日もあるので、行かれる前に調べていくといいでしょう。

皇居東御苑は江戸城のあったところで、同心番所・百人番所・二の丸庭園・三の丸尚蔵館・天守閣跡などがあり、皇室関係の行事に支障が無い限り、昭和43年10月から一般に公開されています。

「番所」とは、警備の詰所のことで、この同心番所と百人番所、大番所の3つが残っています。城の奥の番所ほど、位の上の役人が詰めていました。江戸城の正門であった大手門から入城した大名が最初に通る番所で、与力、同心が詰めて警護にあたっていたところでした。主として登城する大名の供の監視に当たっていました。



▲百人番所

江戸城の正門だった大手門から、本丸に入るとき最大の検問所で、大手三之門の前に設けられたのがこの百人番所で、甲賀組・根来組・伊賀組・二十五騎組の4組が昼夜交代で護りを固めていまし

た。各組には、同心百人ずつが配属されていたところから百人番所の名が生まれました。

道中に碑があるだけですが、松の大廊下跡があります。忠臣蔵でおなじみの元禄14年(1701年)3月14日赤穂藩主・浅野内匠頭長矩が殿中で吉良上野介義央への刃傷事件を起こした場所です。堀沿いに配置されていたらしく、廊下沿いには土塁が並行しているので、廊下からの眺めはあまり期待できなかったのではないかと思います。

廊下に沿った襖戸に「松」と「千鳥」を主題にした絵が描かれていたことから「松の大廊下」と呼ばれていました。江戸城で2番目に長い廊下で、畳敷きの立派なものだったようです。

天守閣跡に足を運んで小高い丘を登りましたが、コンパクトで意外な感じがしましたが、太平の世に立派な天守閣も必要なかったのかもしれませんが。

天守閣跡から見下ろすと、少し城跡に馴染まない変わった建物が見えます。この建物は桃華楽堂で、昭和41年2月に完成し収容人員は200名の音楽堂で、音楽好きの香淳皇后さまの還暦記念として建設されました。

鉄仙の花弁をかたどった屋根と八面体の珍しい建物で、ホール外壁のモザイク・タイルの図柄は、



▲桃華楽堂

各面とも大きく羽ばたく鳥を抽象的に描いたものに、日月星・衣食住・風水火・春夏秋冬・鶴亀・雪月花・楽の音・松竹梅と八面の正面から左へ順に陶片であしらっています。

桃華の由来は、香淳皇后さまの御誕生日が3月なので桃の節句にちなんで桃とし、華の字形は十が六個と一で構成されていることから還暦(数え年61歳)を意味するということで命名されました。

全体として日本女性の優雅でおおらかな理想像を描き出したものと言われています。陶片には、有田焼、信楽焼などが用いられており、玄関正面の屋根の上には鬼瓦の代わりとして金色の雛人形が飾られています。

私も今年が還暦なので、何かの縁だと思い紹介させていただきました。時間があれば、千鳥ヶ淵戦没者墓苑に行きたかったのですが、時間が足りず、またの機会に譲ることにしました。

因みにここは都会のオアシス的な公園になっていて、様々な植物が植えられていました。時期的にバラが綺麗に咲いていました。



▲バラ庭園で綺麗に咲いていました(バラ科 カノコ)

建築士会・建築士事務所協会 合同親睦ゴルフコンペ

総務・企画委員会 委員長 井上 竜治



▲スタート前の記念撮影



▲スタート前のミーティング

新型コロナウイルスも2類から5類に引き下げられ、基本的にマスク着用などの感染対策は個人の判断となって10日が過ぎた5月18日(木)、道後ゴルフ倶楽部で18組71名の参加で、合同親睦ゴルフが盛大に開催されました。

この原稿を書きながら、去年も書いたなと思い、あれから早1年が経過して、ようやくコロナもウィズコロナになったことを実感しました。



▲スタート前、林会長挨拶

天気は晴天で5月にしては少し汗ばむくらいの陽気での開催で、あちらこちらで、ナイスショットやファー！の叫び声が聞こえていました。私の前の組では、バンカーショットからの直接カップインする！（羨ましい）好プレーも飛び出していました。



▲表彰式での尾藤会長挨拶

優勝は大野設計の大野正勝さんでした。おめでとうございます。私はというと、いつも優勝目指して頑張ってはいるのですが、ダブルペリアの恩恵を全く受けることもなく、ドラコン、ニアピンに名前すら書くこともなく、相変わらずの結果でした。ゴルフって難しいですね！でも何より、楽しくプレーできたのが最高でした。ありがとうございました。



▲両会長と優勝者（大野正勝さん）の記念撮影

空き家対策セミナー2023in今治

支部報告

6

今治支部 越智 一貴

2023年2月26日にイオンモール今治新都市にて今治市主催の空き家対策セミナーに来場者専門スタッフとして参加しました。



▲空き家対策セミナーPR

空き家対策説明会の専門スタッフとして対応し、午前10時から空き家相談会及びリフォーム相談会の対応を1時間ほど行い、11時からのセミナーは森重正治氏特別講演「①隈研吾デザインレストランの建設計画について」。海外で料理人の修行をして経験を積み東京で開業、その後、愛媛県今治市大島に移住して地域町おこし隊となり活動、大島に地元食材を活かした料理提供を行いたいとお店の建設を決意されました。



▲レストラン建設計画案（著者撮影）

建設計画について情熱的なラブレターを何も面識のない隈研吾さんへ送るとすぐに返事があり、「今、偶然岡

山県で講演会を行っているので明日今治市大島の建設予定場所を見たい」と運命的な内容で現調を行い、プラン提供を受けました。現地で協議された地域に愛されるプラン模型を現会場に展示されました。白を基調とした斬新なデザイン個室を設けて大島の食材を活かした料理を堪能するスタイルでした。



▲レストランプラン模型案（著者撮影）

13時からのセミナーは「②空き家の利活用の必要性和地域活性化について・賃貸リノベーション事例について」。株式会社ENJOYWORKSさんが東京から来県され、蔵を1組限定の宿泊施設にリノベーションし、投資物件として活用する例、空き倉庫をグループ活用し賃料の負担軽減の恩恵もあり借りても安心する例、空き家をリノベーションして賃貸として資産運用を行い、解体費用が拠出できれば退去のタイミングで解体を行う例など、「空き家は資産」という言葉に感銘を受けました。

セミナー後、今治市地域振興課から空き家バンク登録制度の紹介を行い登録するメリットを説明されました。

当方、木造耐震診断士で愛媛県今治市及び愛媛県越智郡上島町を主として耐震診断及び耐震改修工事を自社で行っています。今後、空き家に対するPRや改修活用事例など周知できれば、空き家に対する考え方も変化すると感じています。

松山支部より

松山支部 支部長 花岡 直樹

令和2・3年度は新型コロナウイルス感染防止のためにほとんどの活動が自粛に追い込まれ、とても残念な2年間になってしまいました。4年度は夏以降、政府や県もウィズコロナに方針変更し、様々な活動が再開されるようになりました。私たち松山支部でも、建築士の日の行事や講習会、地区活動も再開されました。全国大会(あきた大会)は対面で行われ、松山支部から17名が参加しました。特筆すべきは青年委員会セッション地域実践活動報告で、『建築巡礼inまつやま』を大内氏が発表し、全国最優秀を受賞したことです。また、県の青年委員会主催のソフトバレー大会には松山支部から2チームが参加し、Bチームが優勝(Aチームは6位)の栄誉を得ました。

そして、今年度は全開で活動を再開させようといわれた、令和5年度の支部総会の報告をさせていただきます。大勢の皆さんのご参加に感謝です。

<支部総会の報告>

1. 日 時 令和5年4月24日(月) 18:00~18:30
2. 場 所 ANAクラウンプラザホテル 南館2階 サファイアルーム
3. 出席者 76名
(正会員50名、来賓1名、賛助会員25名)
4. 黙とう 物故者 3名
5. 開 会

井上副支部長より、松山支部正会員497名中、出席287名(委任状含む)で、本総会は支部規約第15条第1項に定める定足数の3分の1以上が出席しており、成立している旨の報告をした。

続いて、支部規約第9条第1項の規定により、花岡支部長が議長となり審議を進めた。

6. 議 事

- 第1号議案 令和4年度事業報告の承認について
 第2号議案 令和4年度収支決算の承認について
 徳永監事より監査報告を行った。
 議長より、第1号議案、第2号議案について諮ったところ、異議なく議決された。
- 第3号議案 令和5年度の事業計画決定について
 第4号議案 令和5年度の収支予算の決定について
 議長より、第3号議案、第4号議案について諮ったところ、異議なく議決された。

第5号議案 本会事務局長(新任)の池内誠喜氏を新理事に選出することについて諮ったところ、異議なく議決された。

以上、議案の審議等を18時30分に終了した。
 このあと功労者表彰、感謝状贈呈を行った。

功労者表彰：大内雄志氏、高須賀範昌氏

感謝状贈呈：ケイミュー(株)松山営業所



▲ 総会の様子



▲ 表彰式の様子

去る5月8日に新型コロナが5類に移行され、全国的にもほとんどの活動、行事が元のように行われるようになってきています。引き続き感染対策を行いながら、コロナ前と同様、いえ、それ以上に活発な活動を行っていききたいと思います。

毎年同じ事を言っていますが、私の基本理念は「人材育成」です。みんなで力を合わせて松山支部を盛り上げていきましょう！ 特に若い方々のご参加を期待しています。今年度もどうぞよろしくお願いたします。

愉しむ

松山支部 花房 那樹

株式会社leafの仙波完太さんからバトンを受けとりました松山支部の花房と申します。去年の夏頃に新卒から入社して働き続けていたハウスメーカーを退職し、設計事務所を設立致しました。建築士会に入ったばかりなので“けんちくの輪とは？”と、仙波さんからのバトンに躊躇しましたが、仙波さんの熱い想いに応えない訳にもいかないのので、自己紹介も兼ねて書かせて頂きます。

私が建築業界を目指したきっかけは、高校3年生の時に東京スカイツリーが計画・建設されていました。小さい頃から絵を描いたり、何かを作ったりが好きではあったのですが、スカイツリーの計画を知り、調べる内に建築って面白そうと感じたのです。今している仕事とは少し違う気もしますが、建築という大きなくくりでみると人が過ぐす、暮らす場所をつくる仕事に惹かれたんだと思います。しかしながら当時の私は、脳みその9割はバスケットボールしか考えていなかったのので、受験日の1ヶ月前までバスケットボールを続けた結果、行きたい大学にも行けず、浪人するのは嫌という理由で近くの建築学科のある大学を探し入学しました。

大学に進むと建築学科の同級生達は建築に熱い想いを持った人ばかりでした。恥ずかしながら私は当時、有名建築家は安藤忠雄さんしか知りませんでした。伊東豊雄さんは“イトートヨー？”外国人だと思っていました。そんな周りの友達の影響も受けながら、バスケットボールで培った負けず嫌いの性格が建築に対しての想いに火をつけてくれたのです。脳みそ割合でいうと6割くらい建築でした。(4割はカラオケで歌うことばかり考えていました。余談ですが…)

そんな建築に熱い同級生達とよく建築探訪に行きました。探訪初期に印象に残っているのが、皆様ご存知だと思いますが、安藤忠雄さん設計の“京都府立陶板名画の庭”です。人の五感をコントロールされているような感覚でした。建築は視覚だけで愉しみ、創るものではないんだと感じたのです。写真は当時の同志2人と名画です。(建築にあまり関係のない写真しか残っていませんでした)



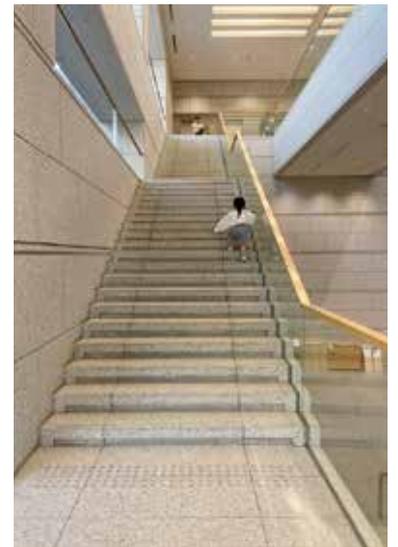
▲陶板名画と大学同志

大学卒業後は、アトリエは生活が苦しいから嫌という理由で大手ハウスメーカーに入社して7年半程度、住宅設計に携わらせて頂きました。入社後、大学入学時と同じく有名住宅建築や住宅作家の方は無知でした。そんな中、住宅設計に熱い想いを持っている恩師(上司)と出会いました。ハウスメーカーの域を超えて“メーカー部材にないものは自分が図面を描いてつくれば良い”と住まう方に真摯に向き合い、プランニングや詳細を考えている姿をみて毎日刺激をもらっている内に住宅設計の魅力にはまっていきました。それから恩師の方と色々な建築探訪に行ったり、毎週お酒を飲みながら建築について話し合ったりと凄く沢山の学びを頂き感謝しています。独立した今でもお互いのプランや建築について話し合ったりできる関係性であり、この恩師との出会いで、今の私の建築の方向性がつくられています。振り返れば私は、出会う方々に恵まれていると感じています。

先日のGW、家族で東京に遊びに行きました。妻も建築士なので子供ができる前から建築探訪によく二人で行きました。今回のGWのメインは、子供の大好きなディズニーランドでしたが、夫婦の欲も満足させるため、隙間時間で建築探訪に行きました。写真は、ディティールを見て愉しむ私を置いて建築探訪する娘です。気がつけば、建築を愉しむ仲間が増えていて少し嬉しくなりました。

自己紹介になっているのか不安になってきましたが、これからも自分自身が建築を愉しむことを大切に、建築に関わっていきたくて思っております。

建築士会に入会したばかりで、バトンを渡す先が無かった為、知人に新企画設計の西岡さんを紹介して頂きました。バトン受取りありがとうございます。



▲建築探訪する娘



▲庭でシャボン玉する妻と娘

建築士？ 土木技士？

八幡浜支部 藤川 広治

1968年に日本初の超高層ビルである霞が関ビルが竣工しました。高さ147m地上36階建てだそうです。この後、世界貿易センタービルが1970年に竣工するなど、高度経済成長期後半は、日本に超高層ビルが次々と建った時代でした。

四国の最西端に生まれ育った私は、幼少期にテレビ等でこれらの超高層ビル群を見て、強いあこがれを抱いていたんだと思います。中学生になり友人との会話で一級建築士の存在が話題になりました。一級建築士は超高層ビルを設計できると。そのころから、私の中で一級建築士になりたいと思うようになりました。

残念ながらその友人とは別々の高校に進学して、その後も別の道を進むことになりました。

私はなんとか大学の建築学科に入りました。2年生のデッサンの授業中に講師の方からこのクラスからは1人も設計士にはなれない旨を言われました。元々、デザインの才能などないと思っていたので、それなら超高層ビルを施工する人になろうと思い始めました。運よく大手ゼネコンへの入社が決まり、研修等を経て最初は8階建の病院でした。10歳くらい年上の先輩に指導してもらい、なおかつ職人さん達にも大事にってもらいました。皆さん地方からの人が多く、田舎育ちの私に親近感をもってくれたのかもしれない。独身寮の夕飯が10時までだったので、なんとかその時間までには寮に帰ってたと思います。

この現場で、高級クラブや北新地にも連れていってもらいました。ボーナスを持って自費で行ってみて、その値段にびっくりしました。2つ目の現場は、12階建の再開発ビルでした。5社JVで事務所スタッフだけでも20人の大所帯でした。ここでは、鉄骨の担当になり、怖い鳶さんと、日々建直しをしたことが印象に残っています。阪神大震災の数年後、家族で2つの建物に行く機会がありました。周りの風景はかなり変わっていましたが、どちらも悠然と存在していて感慨深いものがあり、子供達にも少し自慢しました。

8階建、12階建とくれば次は30階建てと期待していたところ、諸事情により退社して愛媛にかえってきました。私の実家は、土木工事メインの小さな建設会社です。

土木工事は建築と違い大雑把なイメージがありましたが、全然違いました。例えば、道路の高さの許容値は各測点で±2cmです。また、発注者のほとんどが役所であるため、かなりの量の書類も必要になってきます。土

木工事は日々色々な工法が開発されています。5年前の南予地方を襲った大雨の復旧工事の一つを紹介します。EPS工法という発泡スチロールの一種を道路の下に敷き詰めるものです。EPSは非常に軽いんだけど、上からの圧縮に対する強度は強く、その結果、側面にかかる圧力は小さくなります。火気とか太陽光に弱いので、そこを補った完成写真をつけておきます。写真もドローンを使うとカッコイイですね。

愛媛に帰って夢中で仕事して30余年になります。あのままゼネコンに残っていたら、もしかして東京スカイツリーに携わっていたかもしれません。少年の頃にあこがれた建築士は名ばかりで、今は地方の土建屋のおっちゃんになっています。ただここ数年、地方の建設会社の重要性が高まっています。災害時だけでなく日常でも、役所はもちろんのこと一般の方からも、色々な依頼を受けています。建築と土木の両方を経験したからこそできる事があるのかなと思っています。



▲ EPS施工中



▲ 完成

公益社団法人愛媛県建築士会 創立70周年記念事業への協賛のお礼

謹啓

皆様ますますご隆昌のこととお喜び申し上げます。

日頃から当会に対しまして、御厚情を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年度、当会は創立70周年を迎えました。

「記念講演」の開催、および「記念会報誌」の発刊に際しまして、多数の企業・団体・個人の方々から協賛をいただき深く感謝しております。

今後も建築士会にお力添えをよろしくお願いいたします。

謹 白

公益社団法人 愛媛県建築士会

会長 尾藤 淳一

ご協賛者芳名録

これまでにご協賛を頂いた方を、順不同にてご紹介させていただきます。

法人・団体等

(一社)愛媛県建築士事務所協会	様	大野建設(株)	様	大和コンストラクション(株)	様
愛媛県建築士会 四国中央支部	様	(株)大野設計	様	(株)高橋建築事務所	様
愛媛県建築士会 新居浜支部	様	(有)大野塗装店	様	(株)田中建設	様
愛媛県建築士会 西条支部	様	(有)影浦塗装工業	様	(株)寺尾建築設計事務所	様
愛媛県建築士会 今治支部	様	(有)加地工務店	様	東昇技建(株)	様
愛媛県建築士会 松山支部	様	(株)門屋組	様	(株)友清白蟻	様
愛媛県建築士会 伊予支部	様	(株)神開発	様	永井ゆき設計事務所	様
愛媛県建築士会 大洲支部	様	河窪建設(株)	様	西川建設(株)	様
愛媛県建築士会 八幡浜支部	様	学校法人河原学園	様	日機愛媛(株)	様
愛媛県建築士会 西予支部	様	河原デザイン・アート専門学校	様	(有)橋本建設商	様
愛媛県建築士会 宇和島支部	様	川本技建(株)	様	八松硝子建材(株)	様
ARC建築工房	様	関西ペイント販売(株)	様	(株)花岡直樹建築事務所	様
アースハウジング(株)一級建築士事務所	様	(株)キクノ	様	(有)美建設計	様
(株)青空興業	様	岸良一建築設計事務所	様	尾藤建設(株)	様
(有)赤根設計	様	(株)きずき	様	福泉(株)	様
アクシス建築設計室	様	(株)国代耐火工業所	様	(有)福田瓦工業	様
朝日スチール工業(株)	様	(株)栗田工務店	様	(株)富士造型	様
(株)有光組	様	コーエキ(株)	様	フジワラ化学(株)四国営業所	様
(有)稲村組	様	(株)コープ住まいるえひめ	様	(株)二神組	様
井原工業(株)	様	小松ウォール工業(株)松山支店	様	(株)松山合板社	様
井原工業(株)松山支店	様	(株)コンステック松山支店	様	松山電設工業(株)	様
上田消防建設(株)松山店	様	(株)さいとう建築	様	三森建設(株)	様
愛媛県しろあり対策協会	様	(有)酒井設計	様	毛利設計事務所	様
(株)愛媛建築住宅センター	様	シー・アーキテクト	様	(株)森建築設計	様
愛媛総合警備保障(株)	様	重松建設(株)	様	山内建築工房	様
愛媛土建(株)	様	四国エアフォーム(株)	様	(有)山口鉄筋	様
愛媛生コン(株)	様	(株)四国建築設計事務所	様	(株)山本商会	様
M・G・Mストーン(株)	様	正和商事(株)	様	(株)横内造園	様
(株)エム・ワイ・ティ	様	シンカ(株)四国支社	様	(株)横田建設	様
(株)遠藤建設	様	(株)シンツ	様	(有)吉岡建築設計事務所	様
(株)大西建設	様	(株)ダイキアクシス	様		
オオノ開発(株)	様	ダイヤアルミ(株)	様		

『第2回愛媛の景観写真コンテスト』募集のお知らせ

文化財・まちづくり委員会 委員長 峰岡 秀和 景観部会 中山 百合子

□ 趣意

「景観」とはよく耳にする言葉です。建築士の使う「景観」は、建物を入れての風景をさす場合が多いですが、一般の人が使う「景観」と比べて同じでしょうか？

愛媛県建築士会では、会員を問わず「景観」写真を募集します。これにより、世間一般に「建築士会」の存在を知ってもらい、身近に感じてもらうと同時に、「景観」という言葉から浮かぶ風景を通して、その定義を見つめなおしてみたいと考えます。

□ テーマ

「愛媛の景観」について考える

□ 応募期間

2023年6月1日～2023年12月31日

□ 応募資格

Instagramアカウントを持つ全ての方

□ 応募方法

Instagramによる投稿とします。

「第2回愛媛の景観写真コンテスト」をフォローしていただき、「#愛媛の景観写真コンテスト」のハッシュタグをつけて投稿してください。その際、「〇〇市」程度の撮影場所情報を記入してください。

※詳しくは、愛媛県建築士会のホームページでご確認ください。

□ 入賞について

会長賞	10,000円分の図書カード
副会長賞	8,000円分の図書カード
審査委員長賞	7,000円分の図書カード
文化財・まちづくり委員会賞	5,000円分の図書カード
景観部会賞	5,000円分の図書カード
入賞(20作品)	2,000円分の図書カード

□ 選考審査委員

北村 徹 氏 (日本建築写真家協会 正会員)
愛媛県建築士会会長、副会長、文化財・まちづくり委員会

□ 選考結果

選考は2024年1月～2月上旬を予定

入賞作品はInstagramのダイレクトメッセージにてご本人へ連絡するとともに、愛媛県建築士会ホームページ・Instagramにおいて公表させていただきます。

□ 写真展示会

展示期間は、2024年2月24日(土)～3月1日(金)まで重要文化財「萬翠荘」にて応募作品のうち入賞作品を含む200点ほどの印刷展示を予定しています。

□ 授賞式について

2024年2月25日(日)、上記の萬翠荘にて入賞作品の授賞式を行います。時間等の詳細については授賞者に後日連絡します。(やむを得ない理由で授賞式に来られない方は、式より3か月間(5月末まで)愛媛県建築士会事務局において、お渡しします)

※第2回愛媛の景観写真コンテスト
InstagramQRコード



～Instagramの使用方法について～

○初めての「Instagram」超入門

<https://apllio.com/instagram-how-to-use-beginners-guide>

アカウントの作成からハッシュタグの付け方まで丁寧に書いてくれています。

○脱初級！インスタのテクニック・楽しみ方

<https://getnavi.jp/business/66840/>

○複数のハッシュタグの使い方

<https://bitwave.showcase-tv.com/instagram-multiple-hashtag/>

見やすそうなHPをピックアップしました。
インスタから写真を投稿してみましょう！